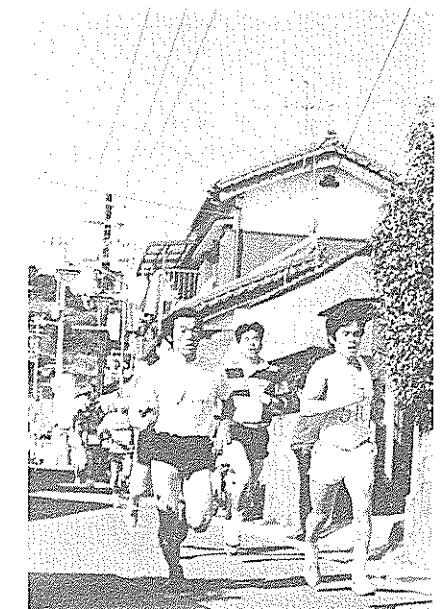


元日の光を浴びて

瓶岩マラソンに145人



新春の一日、瓶岩マラソン大会が開かれ、遠く中村市や安芸市など県下各地から百四十五人が参加し、元旦のすがすがしい空気の中で、小学生から大人までさわやか

初日の中を力走する選手

な汗を流しました。
午前十一時、出発地点の瓶岩公民館前には、ジョギング姿の選手が勢ぞろい。それぞれ自分に合った四つのコースに分かれ、日ごろ鍛えた脚を競いました。

この大会は今年で十九回目、元旦の恒例行事として、今ではすっかり地元に定着し、沿道でも近所の方が出で声援する姿もよく見かけるようになりました。この大会の世話を務めるのが、瓶岩体育会の皆さん。先導役に、タイム係に飛び回っていました。また、地元消防団の方も、交通整理などに協力、地域ぐるみでの大会を盛り上げていました。

* * * * *

会の皆さん。先導役に、タイム係に飛び回っていました。また、地元消防団の方も、交通整理などに協力、地域ぐるみでの大会を盛り上げていました。

4日には

「走り初め」

御用始めの四日、今年の健康と飛躍発展を願って、恒例の「新春走り初め」が行われました。午前九時半、市役所玄関前に集合したトレーニングウエアの小・中学生や一般市民、市職員ら約百五十人は、準備体操をした後、小笠原市長、浜田助役らの先導で新春の後免商店街を通る一・五丁のコースを元気いっぱいに駆け抜けました。

市長を先頭に150人が元気に走り初め

んでいる各消防団や市消防署員ら約三百二十人が勢ぞろいしました。

まず、齊藤正辰團長が「本格的な火災の時期に入り、いつそうの注意をしていく」とあります。小笠原市長らが、整列した二十分団の人員、服装点検を行いました。その後、県大会へも出場した北部団による模範法が行われ、各団員も真剣に見守りながら、防災に対する決意を新たにしていました。この冬は雨が降らず、空気がたいへん乾燥しています。くれぐれも火の用心を！

にして、今のところ昨年並みにとどまっています。寒さ厳しい季節に向かい、一人一人が健康に注意し、交通事故や事業災害などにも気を配り、明るい生活を送つてほ

たいたへん乾燥しています。くれぐれも火の用心を！

日章小らが最優秀

病みて知る健康よりも

培い結ぶ明日の健やか

五十七年度の一年間に、南国市

が国民健康保険で負担した医療費

このうち国保税（保険料）で助

けられた部分が六億五千万円で、こ

れを国保加入の一万七千人の一人

当たりみると、約三万八千円の保

険料となり、十二万五千円の保

険料となり、十二万五千円の保